

「こんにちはは県議会です」

大学生との意見交換会

報告書

開催日 令和2年2月21日（金）

開催場所 長野県庁議会棟 第1特別会議室

長野保健医療大学 学生委員会

令和2年8月17日



目次

I	「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」次第	1
II	「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」報告		
	真島幸大（保健科学部3年）	2
	山田亮太（保健科学部3年）	3
	竹内瑠花（保健科学部2年）	5
	盛田沙英（保健科学部2年）	6
	片山優茉（看護学部1年）	7
	佐々木まゆみ（看護学部1年）	8
	早川桃花（看護学部1年）	9
III	「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」概要	11

1 「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」次第

日時：令和2年2月21日（金）午後2時30分から

場所：長野県庁議会棟3階 第1特別会議室

1. 開会
2. 長野県議会議長 挨拶・県政報告（清沢英男議長）
3. 出席議員の紹介、進行方法説明（荒井武志副議長）
4. 意見交換会 <テーマ>
 - A グループ：「台風災害を受けてのこれからの防災・復興について」
「長野県の交通機関のあり方について」
「環境問題について」
 - B グループ：「若者や女性が地域で輝き、活動するためには」
「インターネットでの情報配信について」
「環境問題について」
 - C グループ：「高齢化が進む本県における健康・医療の課題について」
「長野県の学校教育のあり方、教員の働き方について」
「環境問題について」
5. 意見、感想等の発表（各グループ学生代表及び議員）
6. 長野県議会議長所感（清沢英男議長）
7. 閉会



II 「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」報告

真島 幸大（保健科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 3年）

1. はじめに

令和2年2月21日に長野県内の大学生を対象として「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」が開催され、長野保健医療大学からは7名が参加した。意見交換会の前に、本会議を傍聴した。その後、3グループに分かれて意見交換が行われた。

2. 意見交換会の内容

私は、Cグループで「高齢化が進む本県における健康・医療の課題」「長野県の学校教育のあり方、教員の働き方」「環境問題」について討論した。加藤康治議員、丸山大輔議員に同席していただいた。

「高齢化が進む本県における健康・医療の課題」では、山間部に住む高齢者の移動手段がないためオンライン診療を取り入れてほしい。長野県の平均寿命は長いが健康寿命はさほど長くはないので、レクリエーション活動など地域での交流を活性化したほうがいいなどの意見が出ていた。

「長野県の学校教育のあり方、教員の働き方」では、小学校教員は全教科を教え、さらに事務仕事などもあり負担が多すぎる。そして、精神的ストレスにより辞めてしまう教員もいて働く量を減らせるような働き方改革が必要である。保健室の先生が不在時にけがをした子供の対応が出来るように教員も医療の知識を持っているべきなどの意見が出ていた。

「環境問題」では、電気量削減のためコンビニの24時間営業を短縮するべき、電気自動車は地球に優しいと言われているが、結局火力発電なのであまり意味がないのではないかなどの意見が出ていた。これは3グループ共通のテーマであり各々のグループで様々な意見が出されていた。

3. 私が主張したこと

「高齢化が進む本県における健康・医療の課題について」では、医療機関への移動方法について主張した。医療機関へ行く手段として、車、バス、電車、タクシーなどがある。最近が高齢ドライバーによる事故のニュースを頻繁に見かける。また、私の祖父は目が悪く、祖母は足がよくないためなるべく運転はさせず、医療機関へは両親が送迎するようにしている。長野県のバス、電車は本数が少ない。また山間部の地域ではバス、電車が最寄りにならないことも多い。タクシーは家まで迎えに来てくれるが、コストがかかる。さらに医療機関が遠い場合には一度にかなりのコストがかかることになる。以上のような問題があるため、医師が訪問診療または定期的に山間部などの地域で公民館などを借りて受診しやすい体制が必要であるということを主張した。

「長野県の学校教育のあり方、教員の働き方について」では、部活動の顧問について主張した。経験がない競技の顧問はとても負担が大きい。私の高校時代がそうだったのだが、技術面では何も教えられないからと環境面や部活中の補助などで熱心にサポートしてくれた。だが、より高いレベルを目指していたチームメイトはそういった部活では満足できずやめてしまった。学校の事情や教員不足のためやむを得ないことかもしれない。そこで、社会人などで経験のある人を部活動に外部コーチとして介入しやすいようにしてほしいと主張した。

「環境問題について」では、長野県では車がないと生活出来ない。そのため、CO₂削減について電気自動車をもっと推奨したほうが良いと主張した。だが、この意見に対して電気自動車といっても結局のところ火力発電に頼っているのでエコではない。長野県には大きな信濃川があるので水力発電をもっと利用していくべきと言われた。

4. 意見交換会に参加した感想

議員による本会議の傍聴、議員、他大学の学生との意見交換と初めての経験ばかりでとても貴重な時間だった。

私は医療問題について多く意見を出せたと思う。また、松本大学教育学部の学生は教師の働き方や学校教育の課題について多くの意見を出していた。お互いに大学で学んでいる専門分野の知識を生かし積極的に主張できたことで、内容の濃い意見交換が行えた。

今後、長野県の未来を担っていくのは私たちになる。長野県がより住みやすくなるように、意見交換会で明確になった課題をどうすれば解決できるのかを考えていきたい。

山田 亮太（保健科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 3年）

1. はじめに

令和2年2月21日に「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」が開催され、参加した。意見交換会では事前にA～Cグループの3グループに分けられ、それぞれ話し合うテーマが決められており、私はCグループだった。初めに県職員から全体へ当日の流れや県議会の説明が行われたのちに、本会議を傍聴した。本会議が終えてからグループでの意見交換会が行われた。意見交換会で出された内容や自分の意見を述べていく。

2. 意見交換会の内容

Cグループで意見交換するテーマは「高齢化が進む本県における健康・医療の課題について」、「長野県の学校教育のあり方、働き方について」、「環境問題について」の3点だった。

「高齢化が進む本県における健康・医療の課題について」ではオンライン診療・訪問診療について多く挙げられていた。山間部に住んでいて近くに病院がない地域や、高齢や障害などで病院に行くことが困難な人が長野県には多数いるとされている。そのため病院に行かなくてもテレビ電話を利用することで医師が患者を診療できるオンライン診療や、患者の家に医師、看護師などの医療従事者を派遣する訪問診療が利用できればよいとなった。課題としてオンライン診療ではテレビ電話を行うための機器やインフラの整備に時間がかかる、患者の容態が悪い場合にすぐに対応できないことが挙げられた。また訪問診療は病院のマンパワー不足により訪問できる余裕がないことが挙げられた。

「長野県の学校教育のあり方、働き方について」では、小学校での英語など教育のカリキュラムが変わってきて教える内容が増えたことや、来客の接待や電話対応など事務仕事が多いこと等で教員の仕事量が多く、負担が大きいという意見があった。この先も増える可能性があるため、現場の人手不足を解消するために人材の確保が必要であるとした。また中学、高校では教員が部活動の指導しているため休日が取れない、教員が経験したことのない種目を担当することがあるため十分な指導が行えないという意見も挙げられた。解決策として外部からの指導者を委託するのが望ましいとした。

「環境問題について」は火力発電ではなく水力発電や太陽光発電に切り替えることや、夜間での無駄に使用されている電気を減らすなど電気の問題について触れることが多く挙げられた。現在日本では化石燃料を燃やして発電する火力発電に依存している。化石燃料を燃やすことで温室効果ガスが発生して地球温暖化を助長している。そのため火力発電の割合を減らすことや電気使用量を抑える必要があるとした。私たちが身近に環境問題を解決するためにできることは、電気の使い方を考える、ごみを分別しできるだけリサイクルに回せるようにする、レジ袋を利用しないようにするということが挙げられた。

3. 私が主張したこと

「高齢化が進む本県における健康・医療の課題について」では、私は「脳卒中を予防する必要がある」と主張した。理由として長野県では三大疾病のうち悪性新生物、心臓病の死亡率は全国的に低い、脳卒中は死亡率が高い。また、脳卒中の発症による後遺症で自立した日常生活が困難となる。平均寿命が高い長野県では健康寿命と平均寿命の差を減らすことが重要と考えたためである。

「長野県の学校教育のあり方、働き方について」では、教員が部活動の顧問をしていることについて主張した。部活動は授業のない放課後や休日に行われているために、授業の準備や採点など教員としての業務の時間が取れていないことや、教員の休みが確保できないことが生じている。その解決策は、教員ではない外部の人が指導することが望ましいとした。

「環境問題について」話し合い、私は森林の高齢化について主張した。日本の森林は薪を使わない生活への変化や林業が衰退して、手入れのされていない高齢化した森林が増えている。若い木は成長が盛んで二酸化炭素の吸収量が多いため、地球温暖化防止に期待できる。しかし成熟した木では二酸化炭素の吸収が少ない。また手入れのされていない森林は荒れてしまい山崩れや土砂災害が発生しやすくなってしまふ。さらに、森林の高齢化により花粉の飛散量が増えてしまっているために、花粉症に悩まされている人は多くなっているという健康被害もある。そのために古くなった木を伐採して使用し、植樹していくことが必要である。

4. 意見交換会に参加した感想

意見交換会に参加して今の長野県の課題について考え、解決策を大学や実習で習ってきたことや感じてきた経験を踏まえて意見しあう良い機会だった。また他大学の違う専門領域の学生と話して私にはない知識や考え方があり刺激をたくさん受けてきた。このような会を開いていただきありがとうございます。

竹内 瑠花（保健科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 2年）

1. 討議内容

高齢化が進む本県においての健康・医療の課題、長野県の学校教育のあり方・教員の働き方、環境問題の3点についてグループで意見交換を行った。

高齢化が進む本県においての健康・医療の課題では、高齢者が自分で運転しないと病院へ行けない地域や過疎地域で医療を受けやすくするため、オンライン医療などの在宅で医療を受けられるサービスがあるといいのではないかと、また、長野県では漬物などによる塩分の取りすぎがあり、醤油を霧吹きでかけるなどの意見が挙げられた。

長野県の学校教育のあり方・教員の働き方では、小学校は事務作業など仕事が多いため、事務職員を増やす。中学校・高校では部活動を外部に委託する。人間関係の希薄さなどで離職も増えており、教員が辞めることは子どもに影響を与える可能性があるため、辞めさせないことが重要だという意見が挙げられた。また、発達障害の子どもも一般にいて皆で学ぶようになっているので地域や医療機関で連携して、周りに頼っていいと子どもに教えられる行事を増やす、学校の養護教員を増やすなどが挙げられた。

環境問題では、マイバッグ、マイボトル運動、夜間の電気の使い方を見直す、電気自動車の普及、水力発電を増やす、木の老朽化の改善などが挙げられた。

2. 主張したこと

高齢化が進む本県においての健康・医療の課題では、地域で高齢者が運動を行える場を設けることを挙げた。また、環境問題では、学校などのごみの分別を細かくすべきであることを挙げた。

3. 感想

今回、この意見交換会に参加させていただき、現役の議員の方や他の大学の方と意見交換する機会は滅多になく貴重な体験ができました。特に長野県の学校教育のあり方・教員の働き方では、自分とは違う分野を学ぶ大学の方の意見を聞くことで、私が今まで知る機会がなかった問題を考えるきっかけになり、まだまだ知らないことがたくさんあると感じました。また、普段県議会でどのようなことが行われているかを知り、それが私たちの生活に直結することなのだと改めて感じました。これからは身近なことから興味・関心を持って生活していきたいと思います。

盛田 沙英（保健科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 2 年）

1. はじめに

令和 2 年 2 月 21 日に「『こんにちは県議会です』～大学生との意見交換会～」に参加させていただきました。参加に至る経緯としては、昨年度 11 月に本学と長野県議会の間で連携協定が結ばれました。その活動の一環として、県議会傍聴・議員の方々との意見交換会が企画されました。本学からは 7 名が参加させていただきました。

2. 意見交換会

グループごとのテーマについて話し合いました。私たち A グループは、

- ・「台風災害の影響を受けてのこれからの防災・復興について」
- ・「長野県の交通機関のあり方について」
- ・「環境問題について」

上記 3 つのテーマから意見交換を行いました。

台風被害について私個人が出した意見としては、台風 19 号によって、自分たちの住んでいる長野市でも堤防決壊やそれによる洪水被害・農作物の被害などが起こり、甚大な被害が起きたことから、議員にご意見をいただいたところ、台風 19 号では長野県の想定よりも大きい影響がでた、つまり想定外であったとの回答をいただきました。また、台風災害を受けてのボランティア活動についての意見も論点となりました。ボランティアの現場では様々な問題があることがあると明らかになりました。ボランティアに行く上での知識不足や、洪水被害の大きかった地域でのボランティアでは特に、重労働が多く、特に女性などの力の弱い方はあまり活躍ができなかったりという実体験があげられました。私も募集要項には詳細を明確に書いた方が参加しやすいとの意見を出させていただきました。また、被災した方々への心のケアもボランティアとしてできることの一環であるともあげられました。

次に、長野県の交通機関のあり方については、無人駅が多いことや、各駅での交通系マネー（Suica 等）の普及率が低いことなどが上がりました。回答としては、改札

機設置にコストがかかるとのことですが、私としては、導入によって無賃乗車がなくなるのではないかという意見にはとても賛同できました。

最後に、環境問題についてはプラスチックごみが海洋汚染の原因となっていることからどうしたらプラスチックごみを減らせるか意見を出し合いました。一人一人ができることはマイボトルを持つ、レジ袋は使わない、など意識を持ってもらうこと、そして実行していくことがプラスチックごみ削減に向けて必要なことだと共通認識を持つことができました。

3. 感想

この意見交換会に参加するまでは、話し合ったテーマについて考えたことがあまりなかったのですが、メディアでは取り上げられる数が少なくなっている台風被害の復興は未だに続いているし、一見環境問題とは無縁そうな長野県でも環境問題が取り上げられていたりなど、知らないことがたくさんありました。普段の勉強以外でも学ぶことは多いと感じましたし、長野県について興味を持ち、考える良い機会になりました。それから、皆さんそれぞれの意見を聞くことで自分にはない考え方を発見できました。

片山 優茉（看護学部看護学科1年）

1. はじめに

令和2年2月21日に「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」が開催された。本会議を傍聴した後に、グループに分かれて意見交換が行われた。

2. 話し合いの内容

私が参加したグループでは「高齢化が進む本県における健康・医療の課題について」「長野県の学校教育のあり方、教員の働き方について」「環境問題について」の3つがテーマであった。

1つ目のテーマでは、「高齢者が病院へ行くことにおいて、交通の便があまりよくないこと」「在宅医療について」、2つ目のテーマでは「教員一人の仕事量が多く、負担が大きく、特に小学校の教員は大変であること」「一人で全てをやるという教員の働き方を改革する必要があるのではないか」、3つ目のテーマでは「電気代が深夜料金の時間帯に電気自動車を充電するなどして、電気を主体にしていくべきではないか」ということについて、それぞれ話し合いをした。

3. 私が主張したこと

- ・高齢化が進む本県における健康・医療の課題について

交通の便が良くないので、免許を返納しようにもできない人がいると主張した。事実、私の祖父も認知症がひどくなるまで車の運転をしていた。また、在宅医療につい

ては、在宅だと緊急時の対応が遅れる可能性があるので、設備が整っている病院での治療が望ましいのではないかと述べた。ナースコールのような物があればいいのではという意見も出ていた。

・長野県の学校教育のあり方、教員の働き方について

私が小学生のとき、修学旅行などで養護教諭がいないと担任の先生に怪我の手当てを頼んでいた。怪我の手当てや生徒が嘔吐してしまったときなどの対処法を専門的に学んでいる訳でもない人がそれらの対応をするのは大変だと思う。複数人の養護教諭が居るほうがいいのではないかと、またこれは保育所などにも当てはまるのではないかと主張した。

・環境問題について

電気を主体としていくべきだという意見が出ていた。しかし私は、電気は元をたどれば火力発電が多いので、発電方法をもっと検討してから電気主体にすべきであると思う。火力発電の燃料である液化天然ガス、石炭、石油は限りある資源だ。太陽光発電は山間部のように日照時間が短い地域では効率よく発電できるとは言えない。長野県では千曲川をはじめとする河川があるため、水力発電がいいのではないかと述べた。ただし、水力発電では（太陽光も同様だが）水力に対する発電率があまり良くないと耳にしたことがあるため、その効率を上げる必要があると考える。

4. 意見交換会に参加した感想

自分とは違った目線で様々な意見が聞けたので、自分の視野の狭さを実感できた。ある学生が「マルタ共和国では1クラスに3人の教員がいる」と言っていたのを聞いて、1つ取り上げただけだが、世界と日本の違いも大きいことを知ることができた。また、意見交換会を終えてからも、挙がっていた議題について考えることも増えたように思う。自分と同じ方向を向いている仲間だけでなく、全く違う分野の人と意見を交換することは、新しい考えを巡らせるきっかけになったり、違う目線で物事を見るきっかけになったりすると実感できた。とても価値のある時間だったと思う。

佐々木 まゆみ（看護学部看護学科1年）

1. はじめに

令和2年2月21日に「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」が開催され、本会議を傍聴した後に、グループに分かれて意見交換が行われた。意見交換会の内容、私が主張したこと、参加した感想について述べる。

2. 意見交換会の内容

私が参加したグループではまず、「台風災害を受けてのこれからの防災・復興」をテーマに話し合われた。そこではある学生から、学生にもできる作業を考えてからボランティアを募集して欲しいという意見が出された。その学生は災害後2～3日後

にボランティアに入ったが何をすればいいのかわからず、自分がここにいる必要はない、意味がないと感じてしまったとのことであった。

次に「長野県の交通機関のあり方」について話し合われた。このテーマでは全員一致でICカードを導入した方がいいという意見が出された。

最後は「環境問題について」がテーマである。先進国の環境問題や、先進国の行いによってもたらされる発展途上国の環境・社会問題などについても意見が出された。

3. 私が主張したこと

復興・防災のボランティアについては、本学看護学部では入学して早い段階で保健ボランティアの授業があり、そこで「ボランティアとは」ということを学ぶ機会があった。そのおかげで何を準備すべきなのか、どのような心構えで参加すべきなのか知ることができた。完璧ではなくても少しでもその知識があれば、ボランティア参加にあたって自分の行動が少し変わるのではないかと思う。今回の災害をきっかけに、ボランティアの定義や知識などを県や各学校から周知してもらうのはどうかと提案させていただいた。

ICカード導入については、わたしも同意見である。支払いが便利だけでなく、現金、日本円を用意したり持ち歩く必要がなくなるため、外国人観光客を誘致しやすくなるのではないかと主張した。

環境問題については、プラスチック製買い物袋を減らすことを徹底するのであれば、1枚につき3円や5円では安いし、100円や500円にしたところで使う人は使うだろう。価格をもっと高くしてもいいし、一切廃止するくらいしてもよいのではないかと主張した。

4. 意見交換会に参加した感想

今回は自ら希望しての参加ではなかった。しかし、意見交換会の時間が足りないと感じたくらいとても有意義なものだと感じることで参加してよかった。

議員の皆さんがわたしたちの話を真剣に聞くだけでなく、ご自身の見解を添えてくれたことで一緒に長野県や県民のことを考えているのだと実感することができた。また、わたしたちは県政や国政にばかり頼りがちだが、わたしたちも考え行動しなければならぬと改めて感じるきっかけになった。次回もし参加できる機会があるならばもっとしっかり自分の意見をまとめて臨みたいし、他の学生にも参加して欲しいと思う。

早川 桃花（看護学部看護学科1年）

1. はじめに

令和2年2月21日に「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」が開催され、そこには、県内の大学生と県議会議員の人たちが集まり、与えられた題材につ

いての話し合いが行われた。本会議を傍聴した後に、グループに分かれて意見交換会が行われた。台風災害について、交通機関について、環境問題について述べる。

2. 意見交換会の内容

私が参加したグループでは「台風災害、交通機関、環境問題」の3つをテーマに話し合いが行われた。まず、台風災害については、女性がボランティアに行ってもできる仕事は少なく、どうしても男性メインになってしまい、女性たちは本当に自分たちがお手伝いに行っても大丈夫だったのか、足手まといになってしまったのではないかと不安になった、という意見がでた。次に、交通機関については、交通系電子マネーが使える駅が少なく、急いでいる時にすぐに電車に乗ることができなかつたり、大きいお金しか持っていなかった時に、駅員さんにお釣りがないから大きいお金だけでは支払うことができないと言われ、電車に乗ることができなかつたりするということがあり、不便だなと感じたという意見がでた。最後に環境問題については、今の自分たちには何ができるかという話になり、お買い物に行くときは、エコバッグやマイバックを持参する、プラスチックの容器をよく洗って捨てるなどという意見がでた。

3. 私が主張したこと

台風災害については、私も実際にボランティアに行って、ボランティアを行うことで被害にあわれた方たちは、手伝ってくれて本当にありがとうなどとたくさんの感謝の気持ちを述べてくれたが、その人たちの心のケアは手伝うということだけでは補えていないのではないかと感じた。次に交通機関については、私は普段、自転車で大学まで通っているが、ガタガタした道が多かつたり、自転車専用道路が少なかつたり、街灯が少なく危なかつたりするので、道路の改善を行ってほしいと意見した。最後に、環境問題については、エコバッグを持参したり、プラスチックごみはしっかり洗って捨てたりするなどして、一人一人がそのようなことを意識することによって環境を良くしていくことが大切だと意見した。

4. 意見交換会に参加した感想

話し合いをしてみて、いろいろな人の感じていることや考えていることが分かったので良かった。また、私と似たような意見を持っている人たちが多く、共感し合える部分が多かつた。



「『こんにちは県議会です』 大学生との意見交換会」開催概要

- 1 開催日時 令和2年2月21日（金）午後2時30分から午後5時20分
- 2 開催場所 議会棟 第1特別会議室
- 3 出席者
○県下大学、短期大学の1～3年の学生20名
＜参加学生＞
信州大学 3名、松本大学・松本大学松商短期大学部 6名、
清泉女学院大学 4名、長野保健医療大学 7名

○清沢 英男議長、荒井 武志副議長
○広報委員 丸山 大輔議員、寺沢 功希議員、加藤 康治議員、両角 友成議員
- 4 開催内容 議会傍聴、意見交換・懇談、意見・感想等の発表
- 5 意見交換会テーマ
＜Aグループ＞
台風災害を受けてのこれからの防災・復興
長野県の交通機関のあり方
＜Bグループ＞
若者や女性が地域で輝き、活動するためには（政治参加も含めて）
インターネットでの情報配信
＜Cグループ＞
高齢化が進む本県における健康・医療の課題
長野県の学校教育のあり方、教員の働き方
＜各グループ共通の意見交換テーマ＞
環境問題について
- 6 参加者 29名（議員6名、学生20名、傍聴者3名（大学関係者含））



○開会

(司会：荒井副議長)

定刻となりましたので、ただ今から「『こんにちは県議会です』地域住民等との意見交換会」を始めます。

私は、本日の進行を務めます、長野県議会副議長で広報委員会委員長の荒井武志でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○長野県議会議長あいさつ・県政報告

(荒井副議長)

それでは、長野県議会を代表いたしまして、清沢英男議長からあいさつ及び県政報告を申し上げます。

(清沢議長)

こんにちは。議長の清沢英男であります。

きょうは、「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」にお集まりいただきまして、まことにありがとうございました。

実はことし初めて県議会では県内大学と包括連携協定を締結し、調印いたしました。

これは何かと言いますと、大学というのは知の集積の場所である、そして我々は地域の住民の皆さんの幸せのために何ができるかということを思っているところであります。学生さんは地域貢献にいつも地域の皆さんとお互いにやってくださっていると思いますが、そういうこととか、あるいは大学の先生方の知識を県議会でもぜひ生かしていけたらいいなということで始まった包括連携協定です。その一環で、きょうは皆さんからぜひいろいろなお話を聞かせていただいて、我々も県政をやる上で参考にさせていただければなという思いでお越しいただきました。

その前に、少し県政報告をさせていただきます。お手元の広報紙に少し書いてあると思いますが、最近、きちんとした名前に決まり、「令和元年東日本台風」になりましたいわゆる19号台風であります。このことで長野県は千曲川沿線の皆さんが大変被害をお受けになられました。それをどうやって復旧復興させていくんだということで、一生懸命、今議場でお聞きをいただいたとおりのことを話しているわけでありまして。最後は、加藤康治議員の話の中に出てきたと思いますが、いろいろな人がいろいろな関係からどうやって復旧をしていくんだという話をしているわけでありまして。

県議会というのは、この県庁の中にあるので、みんな一緒に、同じにやっているのかなというふうにも思うかもしれませんが、実は県議会というのは、知事の抱えているいろいろな仕事がありますが、私が今議場で何とか部長、何とか部長と呼び上げましたよね。ああいう人たちは県庁の職員さんとして仕事をする人たちであります。国で言えば内閣に当たります。もう一つ、私たち議員は、それとは違って、

その仕事をきちんとやっているのかい、予算はしっかり使えているのかい、そういう話をする議会というものがあります。これは国とは違います。国は、議員内閣制をとっており、内閣総理大臣は皆さんに選ばれた国会議員の中からなります。一方、地方の議会はそういうことではなくて、県も市町村もそうでありますけれども、首長は、議会の皆さんと同じように選挙で選ばれるので、二元代表制という言葉を使ってやっています。そういう意味で、私どもは、県庁の職員の皆さんが皆さんとお話をするということとは少し違いますので、きょうはそんなこともお含みいただいて、お聞きをいただけたらと思います。

災害の話ですけれども、県庁の職員さんは一生懸命いろいろな知恵を絞って、こうやってやったらいいということをやっていますけれども、議会としても災害連絡対策本部をつくり、被災地をよく見て回りまして、こういうところはまだ手が届いていないんじゃないかとか、もう少しここに予算を使ってほしいということを議会としてやっているところであります。

おかげさまで、皆さんの中にも多分ボランティア活動をご苦労いただいた人もいらっしゃるかもしれませんが、約8万人の皆さんにお手伝いをしていただきましたが、そういうことで被災地も復旧復興が進んでいるわけであります。

それから、最近、台風にしてもそうですけれども、毎年のようにすごい自然災害が日本列島を襲うのではないですか。それは日本だけではなくて、今世界を見てみるとオーストラリアも火事がちっとも消えないとか、これはひょっとしたら、地球温暖化、地球が少し変わってきているのではないかというのを私どもは本当に肌で感じているわけであります。

例えばことしは雪がないではないですか。この前話をしたことがあります、2月14日はバレンタインですけれども、6年前に佐久のほうで大豪雪があったことを覚えていますか。自衛隊が出て、国道18号線に埋まったトラックなんかを何とか動かすという豪雪がありましたけれども、ことしは雪が降らない。こんな年が皆さんが小さいころから今までにありましたでしょうか。そういうこと一つとっても、何か気候が変だな、地球が変だなということを思わざるを得ないわけであります。

長野県議会は、この前の11月の定例議会のときに県が「気候非常事態宣言」を出して、県民の皆さんにきちんと注意をしていただくとともに、この地球について、今生きる私たちが何ができるかということを考えていこうということと呼びかけ、「気候非常事態宣言」を、知事が議会の呼びかけで出しました。

それを一言でいいますと、2050年には二酸化炭素をゼロにしようという大胆な計画であります。ゼロカーボンと言っていますけれども、そういうふうな時代にして、地球を守っていこうという思いがあるわけであります。きょうはそういうことも一つの話題になるかもしれませんが、30年後といえば、皆さんが中心的な世の中の人として活躍する時代のことでありますので、ともに一緒に考えていただければと思います。

それから、今私の胸にきれいなバッジがついていますけれども、これはSDG s といって、国連で始まった、持続可能な開発目標と訳されますけれども、いろいろな意味で地球に対して、私たちの生活に

対して、持続可能とは何なのか、どういうことをやっていかなければいけないのかということのを改めて考えてみることも、先ほど申し上げた気候変動の関係の話と一緒に大切なことだろうと思います。

もう一つは、きょう、あした、あさっての生活をどうしていかなければいけないかということも大事な話だと思います。ですから、皆さんが長野県政に対して、あるいは市とか、そういうことに対してでもいいですが、どういうことを変えてほしい、やってほしいということもあれば、きょう一緒にお聞かせいただければと思います。

長くなりましたが、きょうは大学生の皆さんから私たちが思いもよらないことをぜひ聞かせていただければありがたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

きょうはありがとうございます。

○出席議員自己紹介

(荒井副議長)

それでは、本日出席の県議会議員を御紹介します。

県議会広報委員会副委員長として、丸山大輔議員、広報委員として、寺沢功希議員、加藤康治議員、両角友成議員。

以上でございます。

○意見交換・懇談

(荒井副議長)

では、意見交換の進行方法について御説明します。

現在、学生の皆さんと議員にはAからCの各グループに分かれてお座りいただいているところですが、グループごとに、学生の皆さんから提案のあったテーマをもとに、それぞれ2つのテーマを中心に1時間程度、自由に意見交換をしていただきます。

なお、必ずしも結論を出す必要はありません。

また、意見交換の終了10分前を目安に事務局からアナウンスしてもらいますが、現在議会で制定を検討している「環境政策推進条例（仮称）」に関連し、「環境問題」について学生の皆さんからご意見等をいただく時間も作らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上を踏まえまして、17時5分頃から、各グループで出た意見等について学生の代表者から発表していただくとともに、同グループの議員からも、一言感想を述べていただきたいと思います。

なお、発表時間につきましては、学生・議員合わせて5分以内でお願い致します。

意見交換の進行についての説明は以上です。

なお、本日の「こんにちは県議会です」の概要を後日、議会のホームページに掲載いたしますのであ

らかじめご承知願います。

また、報道の皆様をお願いいたします。記事にする場合等は、質問される学生さんの許可を得るなど、個人情報の保護には十分御配慮をいただきますようお願いいたします。

傍聴される方にもお願いがあります。「意見交換会」の傍聴については会場内を自由に移動していただいて結構ですが、開始後5分程度、各グループが自己紹介を終了する頃までは、着席のままお待ちいただくよう、お願いいたします。

それでは、よろしく願います。

(意見交換・懇談)

(事務局)

意見交換終了まで残り時間10分となりました。

ここで、「環境政策推進条例(仮称)」に関連し、環境問題について、学生の皆さんが日頃抱えていることや関心事について意見交換を行っていただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

○意見・感想等の発表

(事務局)

時間になりましたので、意見交換を終了してください。

(荒井副議長)

それでは、時間になりましたので、意見交換を終了してください。

まだまだお話をしたいことがたくさんあると思っておりますけれども、各グループで話し合った内容について発表していただきたいと思っております。

それぞれのグループごとに、5分程度で、発表される方と議員の感想を、一言ずつになろうかと思いますが、願います。

それでは、Aグループから、発表担当の学生さん、願います。

(Aグループ発表担当)

Aグループでは、台風災害を受けて、これからの防災・復興についてということをも話し合っており、その中で、私たちが学生なので、学生ができるボランティアを考えてほしいという意見が出ました。

あと長野県の交通機関のあり方については、両替をしなくてもいいようにとか、もっと電車、バスを利用しやすいようにICカードの設置をお願いしました。

環境問題については、エコバッグを持ち歩いてもらえるように、プラスチック袋の有料化と、有料化

をするにしてももっと料金を上げていいのではないかと思いました。

以上です。

(荒井副議長)

ありがとうございます。

それでは、次に議員の感想になるわけですが、清沢議長につきましては後ほど議長所感でお願いします。

寺沢議員、それでは一言お願いします。

(寺沢議員)

Aグループでは、今発表していただいたとおりでございます。結構学生の皆さんがボランティアに参加していて、自分たちの実感としてどうだったかということを発表してくれました。ぜひ有事の際、なかなかうまくいかない部分は多々あると思いますけれども、きょうお聞きをした意見を参考にして、もし仮に次起きたときにはスムーズな復興復旧に携われるように参考にしたいと思います。

それから、公共交通機関についても、今使っている現役の皆さんですので、さまざまな不具合、不都合なことを出していただきました。本当にICカードをぜひ導入してほしいというのが大半の意見でしたので、できる限りの活動をしていければなと思っています。

最後の環境問題については、皆さん学生さんながら意識を高く持っていてくれました。あしたからレジ袋は一切もらわない、マイボトルを持ち歩く、ストローと箸も持ち歩くということを約束してくれましたので、一歩進んだのではないかと思います。

(荒井副議長)

ありがとうございました。

それでは、Bグループの発表担当の学生さん、お願いします。

(Bグループ発表担当)

Bグループでは、若者や女性が地域で輝き、活動するためにはという、政治参加も含めた話とインターネットでの情報発信、環境問題についての3つについて主に話し合いました。

まず、若者や女性が地域で輝き、活動するためにはということですが、女性が働きやすい環境とか、戻れる環境が整った状態で女性がキャリアアップを目指していく状況が望ましいのではないかという話になりました。また、女性の子育ての負担が大きかったりとか、そういう面に対して、こども食堂とか、お母さんたちの不安を解消できる場を設けることがとても大切なのではないかという話になりました。

また、若者の政治参加についてですが、若者の投票率は非常に低くて、その理由としては政治に対して余りよいイメージを持っていないということが少し上げられました。そういう学生に対してのアプロ

一丁は非常に難しいですが、自分たちの1票の重さを感じながら、投票に参加したいという話になりました。

インターネットでの情報発信については、余り触れられなかったのですが、インターネット投票の導入によって、もっといろいろな人たちが投票に行くのではないかという話になりました。

最後に、環境問題についてですが、CO₂の排出が問題になっていて、それに対しては自転車の利用を促進したり、公共交通の利用をもっと促進することで問題の解決につながるのではないかという話と、買い物袋、レジ袋の有料化をもっと強く推進することで、マイバッグを持ち歩く人をふやすことが大事なのではという話になりました。

以上です。

(荒井副議長)

ありがとうございます。

それでは、両角議員、一言お願いします。

(両角議員)

今報告があったとおりなので、特に言うことはないなと思うのですが、一つだけ、うちのグループには、将来議員になりたいという人がいました。なかなかこういう席でそういうことまで言ってくれる人は少ないのですが、きょうはそういう点でよかったと感じました。

それと1票の格差とか、学生さん、若い人が投票に行かないみたいな話で、一つだけ、私が市会議員の選挙に出たときに、票数が同数で、何とくじ引きで議員になったという話をさせていただいて、1票の格差という、本当に1票1票が大切だということを身にしみて感じたというお話をさせていただきました。

以上です。

(荒井副議長)

ありがとうございます。

それでは、Cグループの発表担当の学生さん、お願いいたします。

(Cグループ発表担当)

まず、高齢化が進む本県における健康・医療の課題においては、一番多かったのは移動手段のことで、山間地帯や過疎地域での高齢者の医療機関の移動手段がすごく少ないというのが意見として一番多かったです。

長野県は健康寿命と平均寿命も高いですけども、平均寿命が高い割に、健康寿命がさほどまだ高くないというのも聞いて、それを縮めるためにどうしていくかということが課題だと思いました。

長野県の学校教育のあり方、教員の働き方については、一番は教員の人員不足による、働く量がとても多いから働き方を変えたほうが良いという意見が多くて、それで特に小学校の先生の仕事量が多くて、全教科を教えたり、特に事務の仕事も教えたりということで、小学校の先生は特に大変ということを知りました。

環境問題については、CO₂削減のために電気自動車を推進していこうという話になったんですけども、それでも火力発電なので結局CO₂は削減できないのではないかとということで、水力発電とかはどうかということや、あと太陽光は今長野県はよく使っているということを知っていて、でも山間地域だと山に囲まれていて光が余り当たらずに、効率が悪いんじゃないかということだったり、あとごみの分別で、ある地域ではプラごみと紙ごみをしっかり分けているのに、ある地域では分けてないから、分別をもっとしっかりやったほうが良いんじゃないかという意見が出ました。

以上です。

(荒井副議長)

ありがとうございます。

それでは、Cグループの議員さん、お2人おいでですので、丸山議員、加藤議員、続いて一言ずつお願いします。

(丸山議員)

やっと場が暖まってきたところでとめられて、残念だったなと思います。

我々のグループの最大の結論は、塩分を取り過ぎないようにするためにお寿司屋さんに霧吹きを全部置こう。これは加藤議員が責任を持って、全県を回ってお寿司屋さんを制覇してくれるということになりました。

クオリティ・オブ・ライフが大事だという話が非常に響きました。

また、学校の現場は働き方改革を早急にやらないと、もう先生になり手はないぞという危機感を与えてもらうことができましたので、みんなで頑張っていきましょう。

(荒井副議長)

ありがとうございます。

続いて、加藤議員。

(加藤議員)

2人から発言していただいて、特にないんですけども、医療の関係では、訪問診療をしっかりと広めていったほうが良いんじゃないか、そのための環境整備をしっかりとやっていったほうが良いんじゃないかというお話がありました。

あと学校教育の関係では、今あるように社会全体で支えていく仕組みが大事なのではないかという話もありましたし、環境問題は木の老朽化が著しいのではないかということで、木を植えかえることによって、CO₂を吸収し、ゼロカーボンにつながっていくんじゃないかという意見がありました。

以上です。ありがとうございます。

(荒井副議長)

ありがとうございました。

時間も大分経過しておりますが、学生さんのほうで、これは絶対言っておかなければいけないという思いがある方、一人、二人受けたいと思いますので、どなたかありますか。いいですか。

それでは、本当に短い時間だったという声が多かったんですけども、熱心に議論いただきましてありがとうございました。

○議長所感

(荒井副議長)

それでは、まとめに、清沢県議会議長から、今回の意見交換会を踏まえましての感想とお礼の挨拶を申し上げます。

(清沢議長)

どうも皆さん、ありがとうございました。

私のところも含めて、それぞれに話し合いが行われたようであります。Aグループは女性が多くて、男性は1人だけで孤軍奮闘しました。

ご案内のように、環境問題ですぐ思い出すのは、グreta・トゥーンベリさんです。いろいろな評価はあると思うけれども、あの人のすごいところは、自分たちの生きる時代をつくらうとしていることだと私は思っています。ヨーロッパには、フィンランドの首相は34歳の女性、19人の閣僚のうち12人が女性という国もあるわけですから、きょうも議会の中で、男女共同参画という話を皆さんがいるときに発言した人がいたと思うんだけど、女性が男性の聞き役でなくて、男性を聞き役に回す時代になるかもしれないですね。私は女だからとかそういうふうに思わずにしゃべっていくことがとても大事なようになってくると思います。

きょうは、いろいろ政治については考えたこともなかったかもしれませんが、一つ言えることは、皆さんも全て有権者なのであります。一票を行使する権利ですけれども、義務でもあると私は思うので、世の中のことをこれから考えていただいて、ぜひきょう話し合いをしたくらの真剣さを持って毎日を過ごしていただいたらありがたいと思います。

きょうは本当にありがとうございました。

(荒井副議長)

清沢議長、ありがとうございました。

○閉会

(荒井副議長)

本日皆さんからいただいたご意見は、広報委員を通じて全議員にお伝えし、今後の議員活動の参考にするとともに、本会議の質問や、会派の要望に反映させていきたいと思っております。

以上をもちまして、「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」を終了いたします。

学生の皆さん、そして、会場の皆様方におかれましては、長時間にわたり熱心にご参加をいただき、誠にありがとうございました。

長野県議会ホームページ>県政報告会・ふれあいミーティング

<https://www.pref.nagano.lg.jp/gikai/chosa/koho/houkokukai/index.html>